令和７年度 第８回高士区地域協議会
次第

日時：令和７年 12 月 18 日（木）午後６時 30 分～
会場：高士地区公民館　大会議室

1　開会

2　あいさつ

3　議題
　自主的な審議
　　自主的審議事項について

4　その他
⑴ 次回開催日程について
・日時：令和８年　月　日（木）午後６時 30 分～
・会場：高士地区公民館　大会議室

⑵ その他

5　閉会

〔資料・配布物〕
〇事前　・次第
・資料１ たかし子育ておしゃべりタイム 記録
・資料２ 令和７年度高士区地域協議会アンケート　集計結果の分析について
・資料３　高士区地域協議会が考える地域課題（仮説）と地域への確認事項

～　地域協議会における会議の心得　５か条　～

その１　自分以外の人の考えも聞きましょう（自分ばかり話さない）
その２　発言は簡潔にしましょう（だらだら話さない）
その３　建設的な話し合いをしましょう（頭から否定しない）
その４　話し合いやすい雰囲気を大切にしましょう（相手を責めない）
その５　個人の意見は平等に扱いましょう（一人の強い意見に偏らない）

資料１

たかし子育ておしゃべりタイム 記録

日時：令和７年11月16日（日）12:50～13:30　　会場：高士地区公民館中会議室　　参加者７名、出席委員：５名　※敬称略

確認事項	A		B	
	参加者数	３名	参加者	４名
	委員	上野(美)、塚田(幸)、保坂	委員	髙楠、日向
	事務局	村山	事務局	渡邉
	内容		内容	
1 サポートしてくれる家族について （日常の負担感）	・子どもが少なく登校班が成立しない。学校や近くの登校班に合流するにも祖父母からの送迎協力が必要。サポートしてくれる家族（高齢者）がいないと何事も大変。		・中学校では乗り合い送迎が禁止されており、助け合いができない。部活動の大会も各家庭で会場まで送迎しており、負担が大きい。 ・現在、家族が高齢であり、子どもが高校生になった頃には送迎を期待できない。	
2 子育て相談（コミュニケーション）の場について （子育てについての相談の場）	・子育て相談だけを目的にわざわざ集まることはない。同じ地域や目的の人と交流できるとよい。 ・高士の付近に子育てひろばがなく、遠方を利用していたが、利用者は近隣の人が多く、高士の人と交流できなかった。		・中学校の通学で補助金が出ることを初めて知った。子育ての先輩（小学生の子のみの場合、中学生の子がいる方）から話を聞く機会がほしい。 ・LINEなどのコミュニケーションアプリは、知り合ったばかりの人と交換するにはハードルが高い。交換する前に気軽にコミュニケーションを取れる場がほしい。	
3 保護者が周囲（地域の人、友人など）とコミュニケーションをとれる機会について （子育て以外のコミュニケーション（息抜き）の場）	・趣味（バレーボール、バドミントン）の仲間がコミュニティになっている。 ・ＰＴＡや保護者会はその時だけの集まり。 ・幼年野球はなくなった。 ・男性は消防団か。		・職場の方が気が楽。	
その他① ・生活用式の多様化、「昔と違う」と思うところ	・子どもがとても少なく、近くに遊び相手がいない。親が送迎しないと友達と遊べない。 ・現在、中学校では５時以降は校舎内で待機できず、迎えに行くのも難しい。部活動は５時に終了し、授業のみの日は３時に終業するため、子どもが待機できる場所が必要。		・学校まで遠い。13区のようにスクールバスがあるとよい。牧中学校の統合により、スクールバスが使えるようになることを期待。 ・中学校には児童クラブが無く、部活も必須でない。授業が早く終わる日は帰宅時間が早いので対応に困る。	
その他② ・家庭外での支援(1) ・子育て以外のコミュニティ （職場、PTA、地域など）	－		・屋内で子どもが遊べる場が近所にあると、同じ施設で子どもを見ながら親同士が話をして過ごせる。家では思うように遊ばせられない。町内会館を開放してくれるとよい。 ・高士は小学校も制服。制服、スキーウエアなど、一時期しか使用しないもの、サイズがすぐ変わるものを譲ってもらえる場（高士まつり以外にも）がほしい。	
その他③ ・家庭外での支援(2) （公的支援・施設、公共交通など）	・定期券には学割があるが、冬期や悪天候の時だけ路線バスで登校する場合、学割が利かない。補助があると助かる。 ・放課後児童クラブを都度利用する際は、前日までに手続きが必要。面倒な手間なく利用できるとよい。 ・こどもの家は屋内で遊べて安心だが、５時までしか利用できない。以前のように６時まで利用できないか。児童クラブと連携していると助かる。 ・冬期間の登下校について、高校になると良い時間のバスが少なく、料金も高くなる。公共交通が使いやすいとよい。 ・公民館で子育てひろばのような集まりがあるとよい。		－	

資料２

令和７年度高士区地域協議会アンケート　集計結果の分析について

１　調査目的

高士区地域協議会が地域課題と捉えた事項と地域の皆さんが考える地域の課題とに違いが生じないよう、アンケートで検証することにより、地域の想いをくみ取った自主的な審議のテーマを設定する。

２　調査期間

令和７年９月 25 日（木）～10 月 10 日（金）

３　調査方式

・14 町内会の会長へ質問票を紙ベースで配布、回収

・複数項目からの選択及び記述

４　回答基準日

令和７年９月１日時点

５　回答方法

町内会の状況に一番近いものを、選択または記入。

６　調査対象及び回答数

14 町内会（町内会長）　回答：13 町内会　回答率：92.86％

※１町内会は、ご都合が合わず、ご提出いただけなかったもの。

７　その他

・複数回答可の回答割合の計は 100%以上となる場合がある。

1　人口減少

【目的】高士地区の人口減少の状況をご覧いただき、地域を維持していくことの大切さについて地域全体で意識を高めていきたいため。

問１　※「【参考】人口減少の状況（高士区）」をご覧ください。
高士地区の人口減少の現状について、危機感はありますか。（択一）

(n=14)

選択肢		回答数	割合
1	とても危機感がある	8	57.2%
2	まあまあ危機感がある	4	28.6%
3	あまり危機感がない	1	7.1%
4	全く危機感がない	0	0.0%
無回答		1	7.1%
計		14	100.0%

問 1-2　【問１について】理由をお聞かせください。（自由記述）

選択肢	理由
1 とても危機感がある	清里区、諏訪区と同様の減少傾向にショック。これ程の人口減少とは思っていなかった。
	町内の少子高齢化が加速。
	このまま推移していくと高士地区に子供がいなくなってしまうため。
	他地区にくらべて人口減少率が高い。
	今まで町内で行っていた事が全く出来なくなる。
	人口減少は若い人が出ていくが、戻って来ないことであり、高齢者中心の地域はおのずとコミュニティが消滅していくから。
	日本の人口減少によって高士地区が衰退するのではなく、現状維持であれば良しと思う。やはり同じ上越市民でも高士は「ざいご」と若い方は感じるのでは？
	冬期間の除雪対応。
2 まあまあ危機感がある	心配しても解決の方法が考えつかない。
	子供の人数が減っている。
	若者が定着しない理由として、雇用が十分に市内近隣に確保されず、本人家族とも、地区を離れるにやむを得ないと考える状況にあります。行政も費用対効果を理由に特に農村部への投資を行わず（例：高士スポーツ広場など）、魅力がない地区となっています。
	人口減少により、最低限の地域自治、地域運営が危うい状況になり、コミュニティが崩壊することへの危機感があります。
3 あまり危機感がない	日本全体で人口減少が続く見込みであり、当地区に限ったことではない。
4 全く危機感がない	–

（分析）
　実に 12 町内会（約 86%）が「とても危機感がある」、「まあまあ危機感がある」と回答しました。その理由として、人口減少、少子高齢化が進むことで、コミュニティの衰退や崩壊を危惧する意見が目立ちました。
　また、「あまり危機感がない」の回答も、地域の人口減少を楽観視するものではなく、日本全体の問題として捉えるものでした。

問２　若い世代（20 代前半）が高士地区から流出（市内転居含む）する理由として何が考えられますか。（複数可）

（n＝14）

選択肢		回答数	割合
1	通学、通勤に不便	7	50.0%
2	日常生活（買い物、遊ぶ場所）に不便	6	42.9%
3	高士地区に住み続けたいと思う魅力がない	8	57.1%
4	その他：	3	21.4%
	希望する勤務先が極めて少ない。		
	除雪。積雪が多い。自宅の除雪が大変。		
	上新バイパス沿いに企業団地や働ける職場をもっと多くしてほしい（少ない）。		
無回答		1	7.1%
計		25	178.6%

（分析）

最も多い理由は、「高士地区に住み続けたいと思う魅力がない」（57.1%）でした。次いで、「通学、通勤に不便」（50.0%）、「日常生活（買い物、遊ぶ場所）に不便」（42.9%）となっています。

また、「その他」の理由として、「希望する勤務先が極めて少ない」、「積雪が多い」という意見が挙げられ、通勤、通学先を始めとする生活の利便性の低さを人口流出の理由として捉えていると見受けられます。

問３　高士地区で育ち、他地域へ転出（市内転居含む）した方で、この１年間で町内に戻って暮らしている方の人数を教えてください。（択一）

（n＝14）

選択肢		回答数	割合
1	1～3 人	5	35.7%
2	4 人以上	0	0.0%
3	いない	7	50.1%
4	わからない	1	7.1%
無回答		1	7.1%
計		14	100.0%

（分析）

U ターン者が「いない」と回答した町内会が７町内（50.1%）と最も多く、次いで「1～3 人」と回答した町内会が５町内会（35.7%）でした。

地域協議会では、若い世代の U ターン者の少なさに対する危機感を共有しました。

問４　高士地区で育ち、他地域へ転出した若い世代（主に 20 代）が「戻りたい」と思える「魅力的な地域づくり」のために、高士地区で実施または強化すべき取組はありますか。（複数可）

（n＝14）

	選択肢	回答数	割合
1	住環境の提供、支援	7	50.0%
2	同級会・同窓会	1	7.1%
3	婚活イベント	2	14.3%
4	趣味、習い事などができる教室	1	7.1%
5	インターネットを使った交流	2	14.3%
6	ふるさと高士まつり	1	7.1%
7	高士地区体育大会	2	14.3%
8	高士ルミネ	2	14.3%
9	幼少期から高士地区に愛着を持つための事業やイベント	0	0.0%
10	特にない	3	21.4%
11	戻る必要はない	0	0.0%
12	その他	5	35.7%
	世代による価値観のギャップを感じる。		
	雇用の提供、若者のアフター5 での活動場所、低価格若者住宅団地の供給、ルミネのように若者が企画運営するような活力活気あるイベント、そのための財政支援。		
	人口増加のための運動を展開する。例えば「子供 3 人運動」「U ターン推奨運動」など。		
	子育て支援強化。		
	一過性のイベントなどでわざわざ移り住むとは思えない。		
無回答		1	7.1%
計		27	192.9%

（分析）

「住環境の提供、支援」（50.0%）が最も多く、次いで「特にない」（21.4%）の回答となりました。また、「婚活イベント」、「インターネットを使った交流」、「高士地区体育大会」、「高士ルミネ」の回答が同数（14.3%）でした。

全体的に、一過性の取組よりも、日常生活に関する継続的な支援や交流を実施・強化すべきと捉えられます。

問５　高士地区の人口減少について、想いをお聞かせください。（自由記述）

（n＝14）

自由記述
・仲間と食事したり飲んでも、歩いて帰れる店がない。 ・若者だけのグループ活動や趣味の活動が少ない（希望もない？）。
少子高齢化が進み過ぎて、前向きな案が思いつかない。
これ以降も人口が減少していくだろう。
子供は高校までは高士地区に住んでいると思われるが、その後進学して戻ってこない。あるいは就職して他地区へ転居してしまう。これは高士地区に戻りたいという理由が見つけづらいためと思われる。これは上越市にも言えると思われる。
上記のイベント等も大切だが、地区外からでも高士に住む人口を増やさないと先がないのではないか？
人口減少は当地区に限ったものではない。現居住者がこの人口減少をどう受け止めるかによる。
古いコミュニティで農業関連の行事も多く、休日が町内会活動になり、負担が多い。
全国の地方はどこも同じで人口減少は必然。小学校、中学校がなくなれば、わざわざ住む必要はない。
・中心地からの距離がある為、特に冬場はかなりのネックになっているのでは。 ・住宅団地の様な街らしい場所が出来ればいい（他地域から移住）。

（分析）

高士地区の若者の流出や少子高齢化などにより、今後も人口減少が続くことを懸念する意見が目立ちました。

このほか、若い世代は進学すると地元へ戻る理由を見つけにくいのではないかといった意見や、歩いて帰れる飲食店がないなど、生活の利便性の低さに関する意見がありました。

2　コミュニティ

【目的】子どもから高齢者まで、地域全体のコミュニティのあり方が変化してきています。「ご近所付き合い」が減ってきた中で、それに代わる交流の必要性等を考えたいため、伺います。

⑴ 町内会について

問１　町内会では、どのような事業を行っていますか。（複数可）

（n=14）

選択肢		回答数	割合
1	春祭り	10	71.4%
2	夏祭り	7	50.0%
3	祭り（春祭り、夏祭り以外）	3	21.4%
4	懇親会	5	35.7%
5	年始会	10	71.4%
6	さいの神	8	57.1%
7	総会	9	64.3%
8	なし	0	0.0%
9	その他：	2	14.3%
	納涼交流会（盆踊りに代えて）		
	江さらい、池の泥払い、神社祭		
無回答		1	7.1%
計		55	392.9%

（分析）

「春祭り」、「年始会」がそれぞれ71.4%、また、「総会」も64.3%と約３分の２の町内会で行われています。

問 2　町内会で、5 年以内に縮小・中止（廃止）した事業はありますか。（複数可）

（n=14）

選択肢		回答数	割合
1	春祭り	0	0.0%
2	夏祭り	2	14.3%
3	祭り（春祭り、夏祭り以外）	0	0.0%
4	懇親会	2	14.3%
5	年始会	1	7.1%
6	さいの神	4	28.6%
7	総会	0	0.0%
8	なし（→問 3 へ）	6	42.9%
9	その他：	1	7.1%
	盆踊り（コロナの影響で中止）		
無回答		1	7.1%
計		17	121.4%

問 2-2　【問 2 について】主な縮小・中止（廃止）した理由を教えてください。（複数可）

（n=8）

選択肢		回答数	割合
1	新型コロナウイルス感染予防	2	25.0%
2	人手不足	3	37.5%
3	資金不足	1	12.5%
4	企画、運営の手間	1	12.5%
5	行事の形骸化	5	62.5%
6	参加者がいない	2	25.0%
7	その他：	0	0.0%
無回答		2	25.0%
計		16	200.0%

（分析）

5 年以内に縮小・中止（廃止）した事業について、半数の町内会が「あり」と回答しています。

その理由は、「行事の形骸化」（62.5%）が最多でした。次いで、「人手不足」（37.5%）、「新型コロナウイルス感染予防」と「参加者がいない」がそれぞれ 25.0%でした。

人手不足、行事の形骸化については、他の地域でも課題として挙がる事項で、一般的に人口減少や高齢化などが背景にあるものと考えます。

問３　町内会の復活・拡充・新規設立した（したい）事業はありますか。（複数可）

（n=14）

選択肢		回答数	割合
1	春祭り	0	0.0%
2	夏祭り	0	0.0%
3	祭り（春祭り、夏祭り以外）	0	0.0%
4	懇親会	2	14.3%
5	年始会	0	0.0%
6	さいの神	1	7.1%
7	総会	0	0.0%
8	なし	9	64.4%
9	その他：	1	7.1%
	納涼交流会		
無回答		1	7.1%
計		14	100.0%

（分析）

「なし」が 64.4%と約 3 分の 2 を占め、事業の復活・拡充・新規設立を希望する町内会は少数でした。一方、実施した（したい）事業は「懇親会」（14.3%）、「さいの神」（7.1%）、「納涼交流会」（7.1%）など、主に交流を目的としたものでした。多くの町内会で新規事業への意向は、低いことが分かりました。

問４　町内会行事を行う上で“にぎわい”を生み出すために工夫していることがありましたら教えてください。（自由記述）

（n=8）

自由記述
実行委員に町内役員の他、婦人会・青年会・子供会の役員を入れて、全体的に盛り上がるように工夫している。
30～50 代の交流の場を設ける為に、アンケートを実施。アンケートを基に計画予定。
夏祭りを納涼会にして、できるだけ世代間で交流できるように工夫した。
夏祭り実行委員による事前打合せ会を楽しく開催。
夏祭り（飯田まつり）は 30 数年前から実行委員会を組織し、町内からの交付金はあるものの、実行委員長を中心に組織化され、独自に企画、立案し実行している。
現状維持が精一杯。
総会後に抽選会。町内へいただいた物品を景品としている。
比較的、若い人たちにイベントの実行委員に入ってもらっている。町外からの参加も認めている。

（分析）

「実行委員に若者や婦人会を加える」、「夏祭りを納涼会にして、できるだけ世代間で交流できるように工夫している」、「事前打合せを楽しく開催する」など、幅広い世代から多くの人に関わってもらえるような工夫をしていることが分かりました。

一方で、「現状維持が精一杯」のように、今ある行事を継続していくことも困難な町内会があることが分かりました。

問５　町内会館の主な用途と利用頻度を教えてください。年当たりの利用頻度を記入してください。（複数可）

（n=14）

	選択肢	回答数	割合	平均利用回数
1	町内会の会議、行事（回/年）	13	92.9%	14.4
2	老人会の会議、行事（回/年）	6	42.9%	13.4
3	こども会の会議、行事（回/年）	6	42.9%	2.3
4	出前サロン（地域支え合い事業）（回/年）	2	14.3%	1.8
5	習い事（回/年）	1	7.1%	50.0
6	懇親会（回/年）	1	7.1%	7.0
7	サークル活動（回/年）	2	14.3%	26.0
8	多面的機能の維持活動（回/年）	9	64.3%	9.3
9	会館がない、使っていない	0	0.0%	0.0
10	その他：（回/年）	2	14.3%	2.5
	婦人会			
	緊急会議等			
無回答		1	7.1%	1.0
計		43	307.1%	127.6

（分析）

「町内会の会議・行事」が 92.9%で、平均利用回数は年間 14.4 回と高頻度でした。次いで「多面的機能の維持活動」（64.3%、平均 9.3 回）が多くありました。

一方、「老人会」や「子ども会」の利用は 42.9%で、平均利用回数はそれぞれ 13.4 回、2.3 回と差があり、子ども会の利用頻度は低い傾向でした。

このほか、習い事やサークル活動などの自主的な活動への利用も少数ながらあり、特に習い事は年間 50 回と高頻度で継続的な利用が見られました。

町内会館は地域コミュニティの活動の場として不可欠ですが、全体的に利用目的は限定的であり、子どもや若者向けの活用が少ない傾向があるようです。

問６　町内の住民同士がコミュニケーションをとることができる機会として、現在行っているものと、今後あったらよいと思うものを教えてください。(複数可)

(n=14)

選択肢		A 現在行っている		B 今後実施したい	
		回答数	割合	回答数	割合
1	町内会行事	13	92.9%	0	0.0%
2	日常の挨拶、声掛け	10	71.4%	1	7.1%
3	お茶飲み	3	21.4%	1	7.1%
4	農作業	5	35.7%	0	0.0%
5	公民館事業	5	35.7%	1	7.1%
6	見守り活動	4	28.6%	1	7.1%
7	グラウンドゴルフ	0	0.0%	0	0.0%
8	ボッチャ	3	21.4%	0	0.0%
9	輪投げ	5	35.7%	1	7.1%
10	ゲートボール	0	0.0%	0	0.0%
11	ウォーキング	0	0.0%	1	7.1%
12	出前サロン（地域支え合い事業）	2	14.3%	3	21.4%
13	なし	0	0.0%	8	57.1%
14	その他	1	7.1%	0	0.0%
		ゴルフコンペ			
無回答		1	7.1%	1	7.1%
計		52	371.4%	18	128.6%

（分析）

現在の交流機会は「町内会行事」(92.9%）と「日常の挨拶・声掛け」(71.4%）が主で、農作業なども交流機会の一つとなっています。また、「今後実施したい」では「出前サロン」(21.4%）が最も多かったものの、「なし」が 57.1%と過半数を占め、現状維持とする町内会も多くありました。

問 7　高士地区の情報を得るための手段や機会は、どのようなものがありますか。
また、あると便利（便利だった）だと思うものを教えてください。（複数可）

（n=14）

選択肢		A 現在の手段		B あれば便利（だった）	
		回答数	割合	回答数	割合
1	地区だよりたかし	12	85.7%	0	0.0%
2	回覧版	13	92.9%	0	0.0%
3	電話	2	14.3%	0	0.0%
4	インターネット（LINE 等の SNS）	1	7.1%	3	21.4%
5	ご近所付き合い	6	42.9%	1	7.1%
6	各行事への参加	7	50.0%	2	14.3%
7	有線放送			8	57.2%
8	なし	0	0.0%	4	28.6%
9	その他	0	0.0%	0	0.0%
無回答		1	7.1%	1	7.1%
計		42	300.0%	19	135.7%

（分析）

現在は、「回覧版」や「地区だよりたかし」が、どちらも 90%前後の町内会で地域の情報を得るための手段や機会として利用されています。一方、「あれば便利だった手段」として「有線放送」と回答した町内会が 57.2%と半数を超え、地域の情報を得る手段として有用性が高かったことが分かります。また、3 町内会（21.4%）が「あれば便利な手段」として「インターネット（LINE 等の SNS）」と回答しており、今後の活用が期待されます。

これについて、地域協議会では、「若者は地域の情報を全然見ていないし、参加する感じもない。SNS を通じた情報があれば、イベントに来るのではないか」といった意見がありました。

⑵ 老人会について

問1　老人会（またはそれに準ずる会）はありますか。（択一）

（n=14）

選択肢		回答数	割合
1	ある（町内単独）	2	14.3%
2	ある（他町内と合同で組織している）	3	21.4%
3	ない（→「⑶子ども会について」へ）	8	57.2%
無回答		1	7.1%
計		14	100.0%

問 1-2　会員数を教えてください。

（n=6）

回答	会員数	平均人数
高和町	10 人	22.6 人
元屋敷	14 人	
飯田	約 50 人	
森田	17 人	
十二ノ木	22 人	
妙油	不明	

（分析）

「ない」と回答した割合が 57.2%、「ある（町内単独）」が 14.3%、「ある（他町内と合同で組織している）」が 21.4%でした。会員数は、10 人から約 50 人までと幅が見られました。小規模な老人会の維持・存続が懸念されることや、他町内との合同開催等について検討が必要になるものと考えられます。

地域協議会では、「『老人会』という言葉自体に抵抗感がある方が多い気がする」といった意見が挙げられました。

問２　老人会が行っている活動にはどのようなものがありますか。（複数可）

（n=6）

選択肢		回答数	割合
1	輪投げ	5	83.3%
2	ゲートボール	0	0.0%
3	ボッチャ	3	50.0%
4	ボウリング	1	16.7%
5	グラウンドゴルフ	0	0.0%
6	ボランティア活動	1	16.7%
7	美化活動	4	66.7%
8	懇親会	4	66.7%
9	日帰り旅行	2	33.3%
10	お茶会	3	50.0%
11	見守り活動	1	16.7%
12	会はあるが活動は実質ない（→問３へ）	0	0.0%
13	その他	2	33.3%
	１泊旅行		
	１泊旅行、研修会（スマホ教室、オレオレ詐欺被害防止など）		
無回答		1	16.7%
計		27	450.0%

問 2-2　問２の活動全体を通して、参加状況をお聞かせください。（択一）

（n=6）

選択肢		回答数	割合
1	ほとんどの人が参加する	2	33.3%
2	半分くらいの人が参加する	2	33.3%
3	あまり参加がない	1	16.7%
無回答		1	16.7%
計		6	100.0%

（分析）

半数以上の老人会で「輪投げ」（83.3%）、美化活動・懇親会（66.7%）、ボッチャ・お茶会（50.0%）が行われており、少人数でもできる活動や交流が行われていることが分かりました。

また、「半分くらいの人が参加する」（33.3%）、「あまり参加がない」（16.7%）となっており、半数の老人会では活動時の参加者が会員の半数未満であることが分かりました。

地域協議会では、「70 歳を過ぎても勤めている方も多い」という意見もあり、高齢者の活動の場も多様化していることが考えられます。

問３　老人会を運営する人手、担い手の状況についてお聞かせください。（択一）

（n=6）

選択肢		回答数	割合
1	足りている（→「⑶子ども会について」へ）	2	33.3%
2	足りていない	3	50.0%
無回答		1	16.7%
計		6	100.0%

問3-2　人手、担い手がいない場合の対応状況についてお聞かせください。（複数可）

（n=3）

選択肢		回答数	割合
1	なんとかやっている	3	100.0%
2	近隣の町内と合同開催	1	33.3%
3	他団体へ協力依頼	0	0.0%
4	ボランティア協力依頼	0	0.0%
5	その他	1	33.3%
無回答		0	0.0%
計		5	166.7%

（分析）

半数の老人会で運営する人手、担い手が「足りていない」と回答があり、その全てが「なんとかやっている」と回答しており、自助努力に頼っている状況にあります。また、「近隣町内と合同開催」（33.3%）はあるものの、他団体やボランティアへ協力を依頼する老人会はありませんでした。近隣の町内と合同開催している老人会もあり、今後の活動の継続に向け、他団体との連携・協力が必要になることが推測されます。

⑶ 子ども会について

問1　子ども会（またはそれに準ずる会）はありますか。（択一）

（n=14）

選択肢		回答数	割合
1	ある（町内単独）	6	42.9%
2	ある（他町内と合同で組織している）	2	14.3%
3	ない（→「⑷その他の町内会の団体について」へ）	5	35.7%
無回答		1	7.1%
計		14	100.0%

問 1-2　会員（子ども）のいる世帯数と会員数を教えてください。

※1 小学 1 年生から 6 年生までの会員

※2 他町内と合同で組織している場合は、ご自身の町内のみの数をご回答ください。

（n=14）

町内会	世帯数	会員数
稲谷	5 世帯	6 人
下曽根	3 世帯	5 人
高和町	3 世帯	5 人
元屋敷（今年から中学生含む）	1 世帯	3 人
高津	4 世帯	7 人
飯田	6 世帯	9 人
森田	2 世帯	3 人
十二ノ木	1 世帯	1 人
無回答	－	－
平均	3 世帯	5 人

（分析）

「ある」への回答は 57.2%（単独 42.9%、合同 14.3%）、「ない」は 35.7%でした。また、「ある」と回答した町内会では、世帯数は 1～6 世帯、会員数は 1～9 人で、平均は 3 世帯・5 人程度で構成され、全体的に規模にばらつきが見られました。

問２　子ども会が行っている活動にはどのようなものがありますか。（複数可）

（n=8）

選択肢		回答数	割合
1	入学祝い	2	25.0%
2	ラジオ体操	1	12.5%
3	ハロウィン	0	0.0%
4	クリスマス	1	12.5%
5	卒業祝い	2	25.0%
6	旅行	0	0.0%
7	キャンプ	0	0.0%
8	廃品回収	0	0.0%
9	清掃活動	2	25.0%
10	高士地区体育大会	5	62.5%
11	夏祭り	4	50.0%
12	学習会、勉強会	0	0.0%
13	会はあるが活動は実質ない	1	12.5%
14	その他：	4	50.0%
	納涼交流会		
	さいの神、コスモスの種まき（多面的事業の中で）		
	花火大会		
	花火会		
無回答		0	0.0%
計		22	275.0%

（分析）

活動は「高士地区体育大会」（62.5%）が最多、次いで「夏祭り」（50.0%）でした。「その他」でも納涼交流会や花火大会などが挙げられ、長期休業中のイベントを中心に活動しているようです。また、「入学祝い」「卒業祝い」「清掃活動」は各 25.0%で、祝い事に関する行事や美化活動も一定数実施されています。

⑷ その他の町内会の団体について

問１　町内にあるコミュニティ団体を教えてください。

※複数の町内会での合同含む。老人会や子ども会、自主防災組織、農家組合等は除く。（複数可）

（n=14）

選択肢		回答数	割合
1	青年会	1	7.1%
2	婦人会	2	14.3%
3	消防団	9	64.3%
4	有志会	6	42.9%
5	なし	3	21.4%
6	その他	0	0.0%
無回答		1	7.1%
計		22	157.1%

（分析）

回答では「消防団」（64.3%）が最多、次いで「有志会」（42.9%）が多く、地域防災や自主的な活動が一定程度維持されていることが分かりました。また、「婦人会」（14.3%）や「青年会」（7.1%）など、女性や若年層の組織は少数に留まりました。一方、「なし」が 21.4%と約２割を占め、コミュニティ団体が存在しない町内もありました。

地域協議会では、「消防団には、幅広い世代の人がいて、人と接するコミュニティとしてとてもよい」といった意見がありました。

3　子育て

【目的】時代とともに生活様式や価値観が多様化する中で、核家族化、仕事と子育ての両立や学校環境の変化に伴う保護者の負担などの、実態を地域で共有し、地域で子育てについて考えたいため、伺います。

問１　高士地区の人々が子どもと接する機会にはどのようなものがありますか。（複数可）

（n=14）

選択肢		回答数	割合
1	ふるさと高士まつり	11	78.6%
2	納涼会	2	14.3%
3	登下校時の見守り活動	9	64.3%
4	高士地区体育大会	11	78.6%
5	上越市ファミリー綱引き大会	0	0.0%
6	団子まき（餅まき）	1	7.1%
7	高士ルミネ	7	50.0%
8	実施していない	0	0.0%
9	その他	0	0.0%
無回答		1	7.1%
計		42	300%

（分析）

子どもと接する機会は「ふるさと高士まつり」、「高士地区体育大会」が各78.6%、「高士ルミネ」が50.0%と世代間交流の場がある行事が多い傾向にあります。一方で、日常的な「登下校中の見守り活動」もその一つとなっていることが分かりました。

問２　町内、近所で行っている子育て支援にはどのようなものがありますか。（複数可）

（n=14）

選択肢		回答数	割合
1	学校への送迎	4	28.6%
2	登下校の見守り（立哨）	10	71.4%
3	制服や体操着の譲り合い	0	0.0%
4	なし	3	21.4%
5	その他	0	0.0%
無回答		1	7.1%
計		18	128.6%

（分析）

子育て支援は「登下校の見守り」（71.4%）が最多で、子どもの安全確保に関する支援が中心となっています。「制服や体操着の譲り合い」なども行われていません。一方、「なし」と回答した町内会が21.4%でした。

4　その他

問１　地域住民の年齢構成、ご近所付き合いや子育て、保護者の働き方等、高士地区の情勢が目まぐるしく変化していることについて、困りごとや率直な意見、感想をお聞かせください。（自由記述）

（n=14）

自由記述
・世の中が忙しくなったのか、近所付き合いが薄くなった。 ・共働き世帯が多く、土・日が勤務の世帯があり、町内行事に不参加の世帯主が複数ある。（全員参加が難しい）
少子高齢化が進み、自分ファーストが目立つようになった。
一人暮らしの人が増えていく中で、どう対応してゆくのか。
子供が減少していくのがとても心配です。
農地を宅地にするためのさまざまな規制をもっと早く変えていれば、もう少し歯止めがかかったのではと思う（個人住宅、団地等）
町内として続けられる行事は続けてはいるが、少子高齢化のもと、縮小せざるを得ない。近所付き合いも希薄になりつつあり、活気がなくなってきている。そのためにも続けられるものは継続していきたい。
何年もの間、農家中心の考え方で町内運営が行われて来たが、現在「農家なし」になっているにも関わらず、農家中心の考え方で町内運営を行っていることに矛盾を感じる。「農家なし」⇒「販売農家なし」
人口減少、流出は高士地区に限らず全国的な社会問題ですが、住民それぞれの仕事面、生活環境面等々での考え方の多様性が時代の流れの中でなかなか止める事が難しいと感じています。小学校、保育園が無くなり人口が少なくなることは地域が寂れていくのは淋しいことですが、現状として人口減少を防ぐ具体策が見えないのが率直な感想です。
町内会組織運営の個人負担が多く、役員のなり手がいない。今まで各町内で受け持っていた役割も適格者が無く、町内会長に役が集中して、ますますなり手がなくなり、活動低下になっている。
年金受給年齢になっても働きに出ている人が多いので、平日の昼間に会議を組まれたり作業を入れられても頼みにくい状況がある。
年齢構成における周りの環境の変化により個性的（身勝手）な方向に向いてしまい、協調性がなくなって（薄れて）しまっている。
早期の町内合併を実施することが優先されます。

（分析）

少子高齢化や人口減少の進行、働き方の変化等の社会状況を背景に、町内行事への参加が困難な方も増え、近所付き合いの希薄化や地域の活力が低下しているとの意見が目立ちました。また、町内会役員のなり手不足もあり、社会状況に応じた町内会の運営方法に関する意見も見受けられました。

高士区地域協議会が考える仮説の地域課題と地域の声との検証結果

資料3

優先順位	地域協議会が考える仮説の課題	検証結果			町内会へ確認した事項	子育て世帯に確認した事項	行政に確認した事項
３人口減少 高士区の人口減少は顕著であり、危機感がある。地域の皆さんに現状を知ってもらい、地域を維持していくことの大切さについて地域全体で意識を高めていきたい。	・ 高士地区の人口減少が顕著であることを、地域全体で受け止め、今後の高士地区について考えるべき	町内会	・ 今後も児童が減少していくことを懸念している ・ 12町内会（約86％）が危機感を持っている ・ 日本全体で続く見込みであり、高士地区に限ったことではない	○	・ 高士小の児童数の減少に関する考え、感想 ・ 人口減少に関する認識		
	・ 20～30代の<u>若い世代が</u>地域から出て戻らないことが大きな要因	町内会	・ 一過性の取組より、日常生活に関する継続的な支援や交流が必要と考えられる	△	・ <u>若者が住みやすくなる</u>環境づくりの取組 ※高士では男女誤差の範囲と考えられる	・ 若い世代はどのような地域であれば帰ってきたいと思えるか（地元に戻りたいと思える魅力とは何か） ・ 保護者は子供の定住についてどう考えるか	・ 若い世代が望む職種
		子育て世帯	・				
		行政（市）	・ 男性：（現）製造業、公務、建設業 ⇔（希）情報通信業、学術研究、専門・サービス業 女性：（現）医療・福祉、製造業、教育・学習支援業 ⇔（希）学術研究、専門・サービス業、その他のサービス業				
	・ 市内（近隣地域）に若い世代が望む職種が少ない	町内会	・ 半数以上の町内でUターン者がいない	○	・ U・I・Jターンの状況		・ 若い世代が望む職種
		行政（市）	・ 男性：（現）製造業、公務、建設業 ⇔（希）情報通信業、学術研究、専門・サービス業 女性：（現）医療・福祉、製造業、教育・学習支援業 ⇔（希）学術研究、専門・サービス業、その他のサービス業				
１コミュニティ 子どもから高齢者まで地域全体のコミュニティが変化してきている。「近所づきあい」が減ってきた中で、それに代わる交流の必要性等を考えたい。	・ 住民同士の情報共有の場が少ない	町内会	・ 半数の町内会で縮小、廃止した行事がある ・ 多くの町内会で事業の復活・拡充・新規設立への意向が低い ・ 幅広い世代から人を巻き込む工夫をすることで、“にぎわい”を生み出している ・ 町内会館は高頻度で利用されているが、利用目的は限定的である	○	・ 住民同士がコミュニケーションをとる機会 ・ 町内会行事 ・ 地域の情報を得るコミュニケーションツール ・ 縮小、廃止した行事 ・ 復活・拡充・新規設立した行事 ・ にぎわいを生み出す工夫 ・ 町内会館の活用状況		・ 地域の情報を得るコミュニケーションツール
		公民館	・ 地域で活動している団体のチラシ配架やポスターの掲示				
	・ 高齢者が日常でコミュニケーションをとれる場が大切	町内会	・ 老人会があると回答があったのは、5町内会であり、輪投げや懇親会などが行われている ・ コミュニケーションをとる機会として、ふれあいサロンや地域行事などがある ・ 老人会の会員数は、10～約50人と幅が見られた ・ 婦人会や消防団、有志会などもある	○	・ 老人会のある町内数、活動内容（行事） ・ 老人会以外の高齢者がコミュニケーションをとる機会 ・ 老人会の会員数、参加率 ・ 老人会以外の団体（壮年会など）		
２子育て（保護者） 時代とともに生活様式が多様化する中で、核家族化、仕事と子育ての両立や学校環境の変化に伴う保護者の負担など、実態を地域で共有し、地域で子育てについて考えたい。	・ 中学校区が広く送迎が必要。中学校は午後5時までしか滞在できないが、迎えに行けない	町内会	・ 「登下校の見守り」などを行っている町内会もあるが、何も行っていない町内会もある	○	・ 地域で行っている子育て支援	・ 保育園や学校の登下校の送迎、制服購入などの保護者の負担感 ・ 仕事と子育ての両立の工夫 ・ 進学や統合による新たな学校生活について不安なこと ・ 地域で行ってほしい子育て支援	
		子育て世帯	・ 午後5時までに迎えに行くのは難しい				
	・ 保育園や小学校の統合も見据えた場合、送迎や制服などにかかる負担の発生が懸念される	子育て世帯	・ 仕事との両立には同居の祖父母による協力が重要 ・ 中学校に児童クラブがなく、子どもの帰宅時間が早くなる ・ 制服などは譲ってもらえる場がほしい	○			
	・ サポートしてくれる同居家族がいない子育て世代は、子育て相談（コミュニケーション）の場が必要	町内会	・ 「ふるさと高士まつり」、「高士地区体育大会」、「高士ルミネ」など世代間交流の場がある行事のほか、「登下校中の見守り活動」もその一つとなっている	○	・ 地域の人が子どもと接する機会	・ 保護者が周囲とコミュニケーションをとれる機会	・ どのような公的支援があるか
		子育て世帯	・ PTAや保護者会はその時だけの集まり ・ 子育ての先輩から話を聞く場がほしい ・ 送迎に祖父母の協力が必要だが、家族が高齢で困難である				
		行政（市）	・ すこやかなくらし包括支援センターやこどもセンター、子育てひろばなど				
その他		町内会	・ 働き方や社会状況の変化を背景に、近所付き合いの希薄化や地域の活力が低下している	-	・ 近所づきあいや子育ての状況がどのように変化してきたか、意見、感想		・ 空き家活用 ・ 男女の交流機会の創出 ・ 人口推移
		行政（市）	・ 上越市空き家情報バンクや補助金など ・ 上越市結婚活動支援補助金 ・ H17～R2の間で、△21.1％（市全体：△10.0％）	-			